

第6章 人的要因別火災状況

1 高齢者

○ 高齢者が行為者となった火災は火災件数が 58 件増加し、火災による死者は 4 名、負傷者は 2 名増加。

(1) 火災状況

ここでいう「高齢者の火災」とは、65 歳以上の高齢者が行為者となった火災をいいます。

令和 5 年 9 月 15 日現在、全国の 65 歳以上の高齢者の人口は、推計で前年同月よりも 1 万人少ない 3,623 万人で、日本総人口の 29.1%を占めています。

また、令和 5 年 9 月 15 日現在、東京都内に住む高齢者は、東京都の総人口の 23.5%にあたる 311 万 4 千人となっています（総務省・東京都調べ）。

ア 年別火災状況

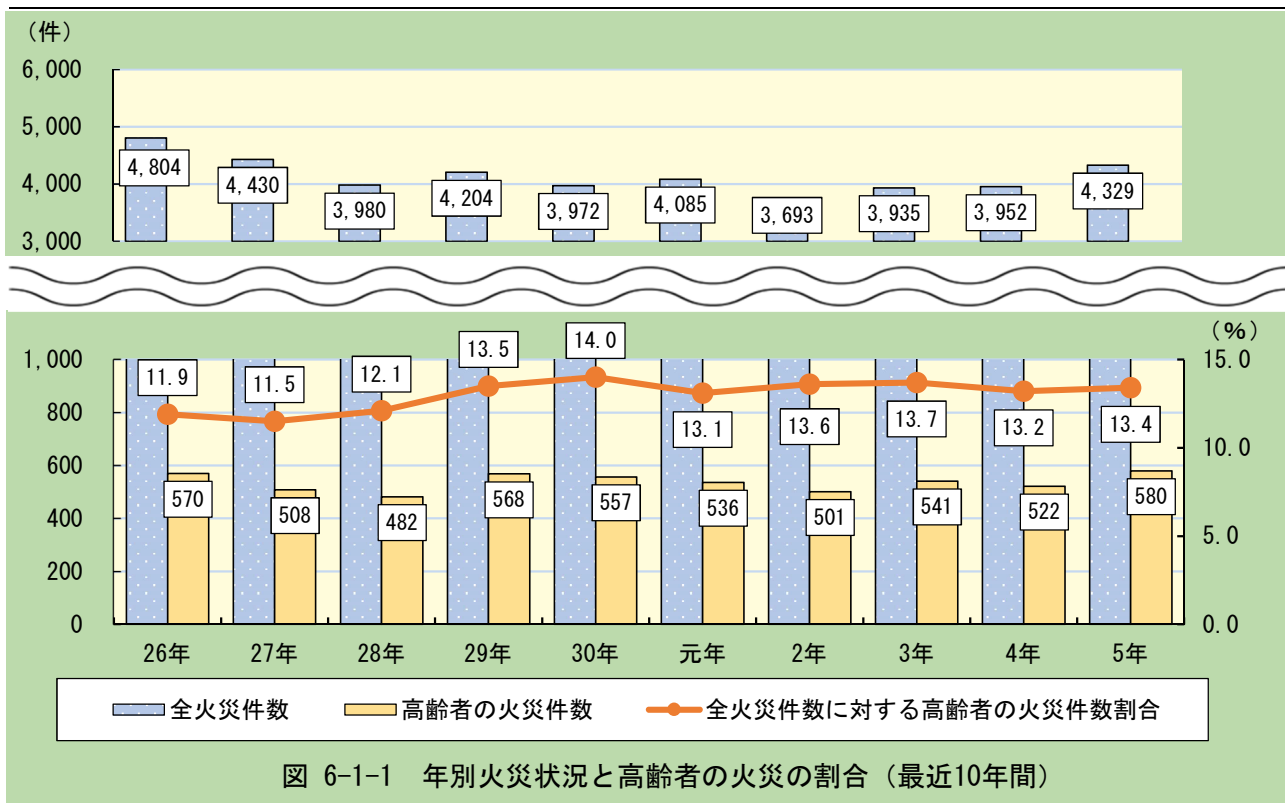
最近 10 年間の高齢者の火災の発生状況をみたものが表 6-1-1、年別火災状況と高齢者の火災の割合をみたものが図 6-1-1 です。

表 6-1-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火 災 種 別										損 害 状 況				
	合 計	建 物					林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
26 年	570	496	25	24	92	355	1	22	-	51	5,017	1,687	815,659	56	224
27 年	508	453	23	24	81	325	-	12	-	43	4,254	1,530	618,056	38	185
28 年	482	434	18	22	76	318	-	19	-	29	3,744	1,205	582,696	36	243
29 年	568	511	26	25	97	363	-	15	-	42	5,379	1,746	1,064,526	35	208
30 年	557	484	17	27	107	333	1	22	1	49	5,623	1,577	1,035,636	44	201
元年	536	479	23	22	96	338	-	19	-	38	4,519	1,516	791,417	50	192
2 年	501	448	18	18	87	325	1	21	-	31	3,271	1,469	691,148	29	179
3 年	541	483	25	31	83	344	3	19	-	36	6,435	2,824	1,064,242	39	193
4 年	522	470	22	24	64	360	-	15	-	37	4,829	1,954	880,090	42	211
5 年	580	519	17	26	113	363	1	15	-	45	5,554	2,305	1,021,338	46	213

○ 行為者が高齢者の火災は 580 件発生し、前年と比べて 58 件増加。

○ 火災による死傷者をみると、死者が 46 人（前年比 4 人増加）発生し、負傷者は 213 人（前年比 2 人増加）発生。



注 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

○ 全火災件数に対する高齢者の火災件数割合は 13.4%を占め、前年と比べて 0.2 ポイント増加。

イ 高齢者の火災の月別発生状況

高齢者の火災の月別発生状況をみたものが表 6-1-2 です。

表 6-1-2 高齢者の火災の月別発生状況

年 齢 区 分		月 合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			火 災 件 数	4,329	399	399	378	352	389	287	394	300	284	331
火 災 高 災 齢 者 件 数 の	合計	580	62	66	52	44	49	32	41	37	26	54	45	72
	前期	246	28	26	24	22	18	16	20	17	10	15	15	35
	後期	334	34	40	28	22	31	16	21	20	16	39	30	37
発生率 (%)		13.4	15.5	16.5	13.8	12.5	12.6	11.1	10.4	12.3	9.2	16.3	12.3	16.0

注 1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

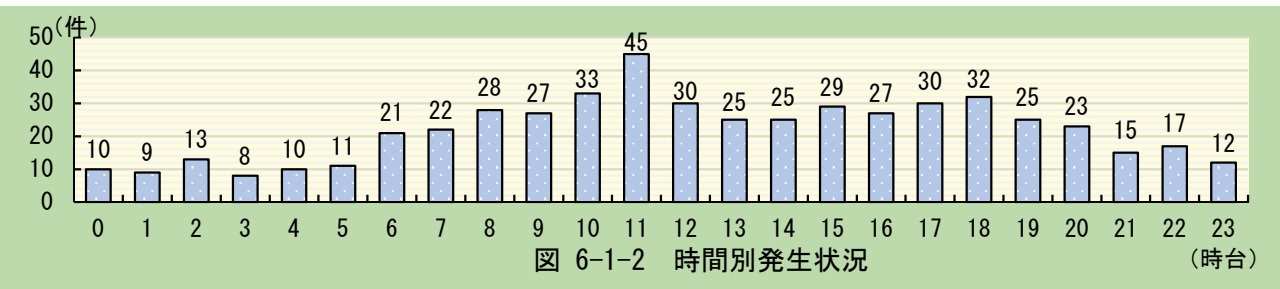
2 発生率は、火災件数のうち高齢者の火災が占める割合を示したものです。

○ 火災の多発する時期である 1 月から 3 月と、12 月で高齢者の火災は、計 252 件（43.4%）発生し、その中でも 12 月は 72 件（12.4%）と最多。

○ 年齢区分別では、前期高齢者が 246 件（42.4%）、後期高齢者が 334 件（57.6%）発生。

ウ 時間別発生状況

時間別発生状況をみたものが図 6-1-2 です。



注 高齢者の火災の時間別発生状況は、出火時分が不明（53 件）の火災を除いています。

○ 出火時分が不明の 53 件を除いた 527 件のうち、1 日を通じて最も多く高齢者の火災が発生している時間帯は 11 時台で 45 件（8.5%）発生。

エ 建物用途別発生状況

行為者とその年齢が判明している建物から出火した火災 2,074 件を居住関係（住宅・共同住宅）と居住関係以外に分けたものが表 6-1-3 です。

表 6-1-3 居住用途別建物火災発生状況

区 分	し 建 た 物 火 か 災 ら 件 出 数 火	居 住 関 係			の 居 住 関 係 か ら 生 じ る 率 (%)	居 住 関 係 以 外
		小 計	住 宅	共同住宅等		
合 計	2,074	1,360	467	893	65.6	714
高齢者以外の火災	1,562	918	247	671	58.8	644
高 齢 者 の 火 災	512	442	220	222	86.3	70

○ 行為者が高齢者で建物から出火した火災 512 件のうち、居住関係の用途は 442 件（86.3%）発生し、高齢者以外の火災より 27.5 ポイント高い。

(2) 出火原因別発生状況

高齢者と高齢者以外の主な出火原因別発生状況をみたものが表 6-1-4 です。

表 6-1-4 高齢者と高齢者以外の主な出火原因別発生状況

区 分	合 計	主 な 出 火 原 因											
		ガス テーブル 等	た ば こ	放 火 (疑い 含む)	大型 ガス こん ろ	電 気 ス ト ー ブ	差 し 込 み プ ラ グ	コ ー ド	コ ン セ ン ト	ロ ウ ソ ク	大型 ガス レン ジ	電 気 こ ん ろ	そ の 他
合 計	2,441	363	305	105	104	58	48	45	38	36	33	24	1,282
高 齢 者 以 外	1,861	225	223	80	85	31	35	36	31	20	33	14	1,048
高 齢 者	580	138	82	25	19	27	13	9	7	16	-	10	234
前期高齢者	246	55	42	16	7	7	5	3	-	4	-	5	102
後期高齢者	334	83	40	9	12	20	8	6	7	12	-	5	132
高齢者の割合 (%)	23.8	38.0	26.9	23.8	18.3	46.6	27.1	20.0	18.4	44.4	-	41.7	18.3

注 全火災件数 4,329 件（治外法権火災及び管外からの延焼火災を除く。）のうち、行為者とその年齢が判明している火災 2,441 件の値になります。

- 行為者が高齢者である主な出火原因別の上位 3 位をみると、「ガステーブル等」が 138 件（23.8%）、で最多。次いで「たばこ」が 82 件（14.1%）、「電気ストーブ」が 27 件（4.7%）。

(3) 発見・通報・初期消火等の状況

ア 発見・通報・初期消火状況

行為者が高齢者で建物から出火した火 512 件の火災発見者及び通報者についてみたものが表 6-1-5、初期消火が行われた火災件の初期消火従事状況と初期消火従事時の火災の状態をみたものが表 6-1-6 です。

表 6-1-5 発見者及び通報者の状況

区 分	合 計	行 為 者	の 出 火 居 住 者 戸	居 同 一 住 建 物 者 の	近 隣 者	通 行 人	関 上 記 係 以 外 者 の	所 出 の 火 勤 務 事 員 業	勤 同 一 務 建 物 員 の	居 同 一 住 敷 地 者 の	外 上 記 来 以 外 者 の	そ の 他
発 見 者	512	159	149	52	41	26	19	14	10	6	5	31
通 報 者	512	53	93	68	103	49	37	11	19	7	10	62

表 6-1-6 初期消火従事状況と初期消火従事時の火災の状態

区 分	合 計	着 出 火 火 物 した が 器具 燃 又は 焼 中	燃 立 ち 上 焼 が り 材 中 が	燃 二 次 的 焼 着 火 物 中 が	延 出 焼 火 拡 室 大 内 中 が	達 天 した 井 状態 等 で に 延 火 災 焼 中 が	火 元 建 物 が 炎 上 中	出 火 階 が 延 焼 拡 大 中	他 階 へ 延 焼 拡 大 中	そ の 他 ・ 不 明
合 計	350	247	40	20	8	3	3	2	2	25
消 火 成 功	264	203	26	15	-	2	-	-	-	18
消 火 失 敗	86	44	14	5	8	1	3	2	2	7
成功率 (%)	75.4	82.2	65.0	75.0	-	66.7	-	-	-	72.0

注 行為者が高齢者で建物から出火した火災 512 件のうち、初期消火が行われた 350 件の値になります。

- 発見は、「行為者」が 159 件 (31.1%) と最多。次いで「出火した住戸の居住者」が 149 件 (29.1%) など。
- 通報は、「近隣者」が 103 件 (20.1%) と最多。次いで「出火した住戸の居住者」が 93 件 (18.2%) など。
- 初期消火に成功した 264 件 (75.4%) のうち、消火時の火災の状態別でみると「出火した器具又は着火物が燃焼中」で消し止めたものが 203 件で (76.9%) と 7 割以上を占める。

イ 避難状況

行為者が高齢者で建物から出火した火災 512 件のうち、避難行動があったものは 110 件 (21.5%) です。このうち、避難に支障があった 10 件の支障理由をみたものが表 6-1-7 です。

表 6-1-7 避難上の支障理由

区 分	避難上支障 のあった火 災 件 数	死 者 数	負 傷 者 数
合 計	10	3	20
廊 下 が 火 煙 で 利 用 で き ず	2	-	6
老人幼児災害弱者等自力避難困難	2	1	-
パ ニ ッ ク 状 態 と な っ た	2	-	4
火 災 に 気 付 く の が 遅 か っ た	2	-	3
そ の 他	2	2	7

- 避難に支障があった火災は 10 件 (9.1%) で、出火階及び出火階の直上階で発生。死者が 3 人、負傷者は 20 人発生。

2 工事関係者等による火災

- 作業区分別にみると、溶接関係が 30 件で最多となっており、次いで電気作業関係が 5 件となっている。
- 火災件数は 72 件で、過去 10 年間で最も少ない。

(1) 火災状況

「工事」の火災とは、工事現場、工事中の建物から出火した火災や、工事に関連して発生した火災をいいます。また、工事に関係した火源により、工事現場以外の場所から出火した火災（以下「近隣火災」という。）も含まれます。

ア 年別火災状況

工事火災の年別火災状況をみたものが表 6-2-1 です。

表 6-2-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火 災 種 別									損 害 状 況				
	合 計	建 物					車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や								
26年	110	65	8	3	17	37	1	-	44	1,882	801	315,979	-	13
27年	92	54	-	2	10	42	2	-	36	483	185	136,268	3	30
28年	82	45	2	2	10	31	3	-	34	1,001	655	819,127	-	15
29年	98	58	1	1	9	47	1	-	39	359	128	95,818	-	28
30年	96	55	-	1	11	43	2	-	39	700	5,256	2,467,340	5	81
元年	102	57	-	2	15	40	2	-	43	997	342	2,274,206	3	30
2年	88	40	2	1	12	25	2	-	46	2,865	482	1,867,839	-	21
3年	100	55	1	-	13	41	1	-	44	143	120	39,142	-	4
4年	85	45	2	-	6	37	1	2	37	349	79	205,396	2	10
5年	72	37	1	-	13	23	1	-	34	77	446	219,297	-	16

- 令和 5 年中は 72 件発生しており、前年より 13 件減少。そのうち建物火災は 37 件(51.4%)発生。
- 焼損床面積は前年より 272 m^2 減少しており、過去 10 年間で最も少ないが、焼損表面積は 367 m^2 増加。
- 死者は発生しなかったが、傷者は前年より 6 名増加。

イ 工事別発生状況

工事現場から出火した火災 72 件の作業区分別の工事種別についてみたものが表 6-2-2、火災と作業との関係がない建物火災の出火原因別の工事種別をみたものが表 6-2-3 です。

表 6-2-2 作業区分別の工事種別

作業区分別	工事種別												
	合計	建物工事					設備工事					その他の土木工事	その他の工事
		小計	新築工事	解体工事	補修工事	改装工事	小計	電気工事関係	管工事	機械器具設備工事	その他の設備工事		
合計	72	53	23	18	3	9	13	5	4	1	3	1	5
溶接・溶断作業	30	24	10	10	3	1	4	1	1	-	2	-	2
電気作業	5	1	-	-	-	1	4	4	-	-	-	-	-
床張り・壁張り作業	2	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
配管作業	2	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-
塗装作業	2	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
掘削作業	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
アスファルト溶解	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	10	7	2	4	-	1	2	-	-	1	1	-	1
火災と作業との関係なし	19	16	9	4	-	3	-	-	-	-	-	1	2

表 6-2-3 出火原因別の工事種別

出火原因	工事種別			
	合計	建物工事		事
		新築工事	解体工事	改装工事
合計	16	9		4
充電式電池	3	3		-
放火（疑い含む）	2	1		-
たばこ	2	1		1
コード	2	1		1
不明・その他	7	3		2

注 「火災と作業との関係なし」の 19 件のうち建物工事から発生した火災 16 件をみたものになります。

- 建物工事の火災で作業区分別にみると、最も多いのが溶接・溶断作業で 24 件（41.4%）発生し、このうち工事種別をみると新築工事及び解体工事が 10 件（41.7%）。
- 設備工事の火災は 13 件（18.1%）発生し、このうち電気工事が 5 件（38.5%）で約 4 割を占める。
- 火災と作業との関係が無い建物工事火災における出火原因別の工事種別をみると、16 件のうち 2 件（12.5%）が放火により出火。

イ 作業区分別発生状況

最近5年間の作業区分別火災状況をみたものが表6-2-5です。

表 6-2-5 作業区分別発生状況（最近5年間）

年 別	合 計	作業区 分									
		溶 断 作 業	溶 接 ・ 電 気 作 業	掘 削 作 業	壁 張 り 作 業	床 張 り ・ 配 管 作 業	塗 装 作 業	等 の 溶 解 作 業	ア ス フ ア ルト	そ の 他	作 業 関 係 な し
元年	102	34	16	2	4	6	2	2	20	16	
2 年	88	29	11	5	2	3	3	2	11	22	
3 年	100	32	17	4	4	1	7	1	18	16	
4 年	85	30	9	5	3	3	1	1	10	23	
5 年	72	30	5	1	2	2	2	1	10	19	

ウ 溶接・溶断作業

溶接・溶断作業の火災で火花が飛散、落下することによって発生した火災29件のうち着火物が判明した24件についてみたものが表6-2-6、着火物までの飛散距離をみたものが表6-2-7です。

表 6-2-6 溶接・溶断作業の着火物

着 火 物	件 数
合 計	24
く ず 類	6
可 燃 性 固 体	6
合 成 樹 脂	6
不 明 ・ そ の 他	6

表 6-2-7 着火物までの飛散距離

飛 散 距 離	件 数
合 計	23
5 0 cm 未 満	6
5 0 cm 以 上 1 m 未 満	2
1 m 以 上 2 m 未 満	3
2 m 以 上 5 m 未 満	7
5 m 以 上	5

注 飛散距離が不明の1件を除く。

エ 作業関係以外の出火原因

放火の出火箇所と着火物をみたものが表6-2-8です。

表 6-2-8 放火の出火箇所と着火物の状況

出 火 箇 所		着 火 物			
		合 計	新 聞 紙 ・ ち ら し	合 成 樹 脂	衣 類
合 計		3	1	1	1
建 物	工事中の建物等	3	1	1	1
建物以外	敷地内等	-	-	-	-

- 出火原因別では、「溶接関係」が24件（33.3%）で最多。次いで「電気設備機器関係」が19件（26.4%）
- 「溶接・溶断作業」で火花が飛散することによって発生した火災の着火物は「くず類」、「可燃性固体」、「合成樹脂」で各6件（25.0%）。

3 着衣着火

○ 建物火災のうちの 55 件（98.2%）がぼや火災。令和 5 年は 4 人の死者が発生し、死者の発生率は、前年と比べると 1.3 ポイント増加。

(1) 火災状況

着衣着火火災とは、何らかの火源により人の意志に反して、身につけている衣類に着火した火災をいいます。例えば、調理中のガステーブルの火や灯明*の火が衣類の袖口に着火するなどの火災が該当します。

着衣着火火災の年別火災状況をみたものが表 6-3-1 です。

表 6-3-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火災の種類別									損害状況					死者発生率 (%)
	合計	建物					車	船	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者	
26 年	79	69	-	-	3	66	-	-	10	39	13	4,630	8	72	10.1
27 年	66	60	1	-	3	56	-	-	6	147	3	5,542	7	64	10.6
28 年	65	59	-	-	1	58	1	-	5	-	1	575	7	66	10.8
29 年	56	52	1	1	2	48	-	-	4	83	57	13,011	4	54	7.1
30 年	52	47	-	1	2	44	-	-	5	38	7	40,660	4	47	7.7
元年	68	65	-	-	1	64	-	-	3	10	40	640	3	62	4.4
2 年	76	64	-	-	1	63	-	-	12	-	2	513	4	71	5.3
3 年	52	43	-	-	1	42	-	-	9	10	18	3,070	1	53	1.9
4 年	57	47	-	-	-	47	-	-	10	-	-	99	3	57	5.3
5 年	61	56	-	-	1	55	-	-	5	30	37	2,971	4	60	6.6

(2) 出火原因

主な出火原因と死傷時の状態別をみたものが表 6-3-2 です。

表 6-3-2 主な出火原因と死傷時の状態別状況

区分	合計	主な出火原因									死傷時の状態						
		ガス テーブル 等	電気 ストーブ	ロウ ソク	ガス ストーブ	た ば こ	ラ イ タ ー	大型 ガス こんろ	花 火	その他	家事 従事 中	作 業 中	休憩・ 休憩 中	飲 食 中	初期 消火 中	火 遊び 中	その他・ 不明
火災件数	59	40	2	2	1	1	1	1	1	10	中	中	中	中	中	中	中
死者（人）	4	2	1	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	2
負傷者（人）	60	42	1	2	1	1	1	1	1	10	32	12	4	1	1	1	9

注 「火災件数」は、死傷者の発生していない火災 2 件を除く。

(3) 火災による死傷者

着衣着火火災の死傷者 64 人を受傷程度別でみたものが表 6-3-3 です。

表 6-3-3 程度別受傷状況

区 分	合 計	死 亡	重 症	中 等 症	軽 症
合 計	64	4	12	12	36
高 齢 者 以 外	27	1	5	7	14
高 齢 者	37	3	7	5	22
高齢者の占める割合(%)	57.8	75.0	58.3	41.7	61.1

- 主な出火原因別の上位 2 位をみると、ガステーブル等が 40 件（67.8%）と最も多く、次いで「ロウソク」、「電気ストーブ」が 2 件（3.4%）発生。
- 死者が発生した主な出火原因は、「ガステーブル等」で 2 名、「電気ストーブ」及び「その他」でそれぞれ 1 名発生。
- 死傷者をみると、高齢者が 37 人（57.8%）発生。